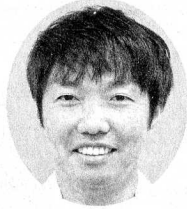


こちら
子どもスポーツ診療室



遊んでいるときなどに転倒、転落して手をついた際、子どもは肘を骨折しやすいという。子どもの肘の骨折は治りにくく、きちんと対処しなければ、骨が変形する恐れもある。徳島市民病院整形外科の吉岡伸治主任医長に、症状や治療法を聞いた。



吉岡伸治主任医長

子どもの肘の骨折で最も多いのが「上腕骨顆上骨折」だ。上腕骨は肩から肘までの骨で、肘の関節近くに顆上部と呼ばれる部分がある。子どもは、大人と比べて顆上部の骨皮質(表面の硬い部分)が薄いため折れやすくなっている。この骨折は特に5〜10歳の子どもの多いといわれる。跳び箱や鉄棒などの

ケースもある。

病院では、エックス線検査で骨のずれを確認し、折れた骨が神経を傷つけたり、動脈を圧迫したりしていないか診察する。圧迫で血流が止まったまま放置すると、肘周辺の筋肉が壊死を起こし、最悪の場合は手を動かせなくなる。

また、他の骨折よりも骨が変形しやすく、骨が内側に曲がった状態でひっつくこともある。後遺症を防ぐには、折れた骨を元の位置でしっかりと固定するのが大切だ。

治療は、骨のずれが小さければ、ギプスで固定する。子どもは骨の回復が早く、3〜4週間の固定で十分なこ

肘の骨折

変形防ぐため緊急手術も

29



【右】転倒の際に手をつき上腕骨顆上骨折になった男児のエックス線写真【左】2本のピンで折れた骨を固定する手術を受けた(吉岡主任医長提供)



とが多い。骨のずれが大きい場合は、緊急手術が必要になる。全身麻酔をかけて骨を整復し、金属製のピン2、3本を刺して固定する。受診当日に実施することが多い。

この他に肘の骨折で多いのが、肘関節の中で起きる「上腕骨外側顆骨折」だ。小さな子どもの外側顆部は軟骨組織でできている。エ

ックス線写真では分かりにくく、診断が難しいケースもある。

で4〜6週間固定して治療する。ただ、折れた骨は筋肉に引っ張られてずれやすく、上腕骨顆上骨折と同様のピンで骨を固定する手術になることが多い。適切に治療しないと、骨がひっつかないままになる偽関節や肘の変形といった後遺症を招く恐れがある。

吉岡主任医長は「肘の骨折は、変形が残りがやすく、やっかいな後遺症を起こさないよう、早期に治療を受けてほしい」と話している。(山口和也)